

発行者 517-0501三重県志摩郡阿児町鶴方3121-6 支部長 山本常美

今年も新年度に向けての活動となりました。まだ会費未納の方、又次年度会費の送金よろしくお願ひします。

年会費 3000円 会議会合費 1000円

振込先 郵便 日本サーバス東海北陸支部 00810-5-79212 会計担当 堀内和子さん

会計の方の負担も考え、早期の振込みに、ご協力ください。

次回例会予定 1月25日(日) 名古屋マリオットホテル一階 デセナーレ A.M 10時から
議題。国内会議に向けて東海支部からの議案

大勢の参加をお待ちしています。1月例会は、総会ともなりますので、欠席の方は、委任状のほうよろしくお願ひします。

新リスト作成に当たり住所変更・電話番号・地名変更・アドレス変更などありましたら、1月25日までにご連絡下さい。

暖冬とはいえ、寒くなりましたが、今年も例会3回、会報3回の発行でほほ他支部と近い活動を終えることができました。皆さん、又役員の皆さんの協力有り難うございます。

夏の例会には、名古屋近辺の、新入会員など多くの新しい顔ぶれの会員さんの参加を頂き、10月例会では、久しく会員ゼロの富山県からの新入会員の参加をいただき、会を盛り上げていただき有り難うございます。その新入会員さんから、早速嬉しい受け入れ報告も頂き、活発な活動を展開していただいている由、とても喜んでます。とりわけ名古屋地区内での会員増は、受け入れ態勢が、整い、新空港利用者の来訪者には、とても好都合のように報告受けています。又、富山方面でのサーバスホストを探してみえるトラベラーいましたら、是非紹介してあげてください。若くてもしっかりした学生さんですので。

1、東海支部例会、東京での国内会議、極東アジア会議

3月の、国内会議向けの1月例会、是非貴重なご意見寄せてください。又よろしければ、東京での国内会議、足を、お運びください。会議日程は、3月28、29日ですが、参加希望者には、詳細を、又後ほど連絡させていただきます。今年の京都にての会議には、東海支部から、4名の参加をいただきましたが、活動の広がりにもつながりますので、是非、参加してみてください。国内交流にもつながるかと思ひます。昨年の会議には、韓国からの参加もあり、会を盛り上げていただきました。サーバスの会が、ただ、英語上達のための外国人の方のみの受け入れだけではなく、欧米諸国のサーバス活動のように、身近な、国内会員相互の交流、近辺アジアの国々との活発な交流という円熟した人間相互の交流にもつながっていければと思ひますが、皆さんは、いかがでしょうか？そういった意味では、今年の極東アジア会議への、牧野さん、阿部さんの出席は、今後の活動の転換につながるのかな？とは、期待しています。次回極東アジア会議は、台湾での開催ということですので、又、新しいアジアの国とのつながりになるのでは？と、とても、期待しています。是非、東海支部会員の皆さんも、他支部、又近辺諸国との交流の糸口として、当例会に参加いただき、交流経験者のお話を伺って、次回近隣諸国での会議等への参加とつなげていただければと、思ひます。きっと、英語が、上手になる以外の、アジアの人々と触れ合う深い心の交流に、つながると思ひますので。

2、10月例会報告 牧野様長野別荘にて

いつもの、秋深まる自然に包まれた会場にての例会、新入会員、富山大学生吉田有雅さん、瀬戸市の大田有美さんを、迎えての例会でした、若いお二人の参加とあり、とても華やいだ雰囲気の例会となりました。サーバス活動への、しっかりとした目的を、お持ちのかたがたで、これからの活動が、楽しみです。特に、

富山県の初めての会員さんでもあり、富山での充実した、サーバス活動が、さらに会員増につながればと期待しています。

これから、新入会員の会員勧誘に際しては、例会への参加を、是非勧めてあげてください。やはり、サーバス経験長い会員さんの、長く時間をかけての、受け入れ体験談、旅行体験談は、これまでに多かった夏休み前の、あわただしい新入会員面接では、伝え切れないものを、補ってくれるものがあると思いますし、面接を受ける側も、この会にどのような方が活動しているかの理解にもつながるかとも思いますので、——特に泊り込みの例会に参加いただけるのが、よりベターかと思います。——会員勧誘くださる会員さんよろしくをお願いします。
(文責 山本常美)

3、トラベラー報告

1) 堀内様 報告 初体験十五日間 夫 63 歳 妻 58 歳のヨーロッパ・サーバス旅行記

9/25~27 まで フランクフルト 「郷に入っては郷に従え」と自覚しつつも、ファーストネームで呼んでよいか最初に聞かなかったのが、3 日目に謝ると、ファーストネームで呼ばないことは、とても悲しいこと。年上の人からそのことを言うのが普通なので、トラヘルから言われた。旅行が成功するか自信がないという、何事もわからなかったら聞くようにとアドバイスをもらい、大丈夫! と励まされた。フランクフルト中央駅で電車の中までベルトは来てくれて、予約席をなかなか空けてくれない男性に抗議してくれた。2 日目にはスーパーや市場で材料を買いチラシすしを作る。

9/27~29 ベルリン バンジー駅から電話をすれば迎えに来てくれると言われたのに、日本で携帯電話に番号登録して行くも、通じなく、夫はこれから個人旅行には行かないと言い出す。仕方なくタクシーでユリーカの家に行く。ここでドコモ電話の掛け方の説明が間違っていたことが判明した。17 歳のベニーは食事の準備を良く手伝っていた。紳士的な態度に感心させられた。まきの暖炉の傍で語り、庭が湖に面しており、27 日夜は花火があり見物した。28 日はブランデンブルク門辺りを歩くと、マラソン大会に遭遇後、壁の博物館を見学。日曜日だったのでユリーカが案内してくれた。

9/29~10/2 ドレスデン 29 日はユリーカが 7 時 30 分に仕事に出掛けるので私達も一緒に家を辞し、ベルリン中央駅まで見送っていただく。ドレスデン中央駅でスーツケースをコインロッカーに預け、インフォメーションへ行き、日本語地図を買い、家族一日乗車券を買う。ユリーカが焼いたケーキを王宮の庭で頂く。乗るトラムを間違えてしまいハブニングも。ポーランドプラツ・バス停から目的のポーランドストリートを探すのが一苦労、親切な紳士と一緒に探してくれた。ソニアの家はスーツケースを引き歩くには遠く、三階に運ぶのも腕が痛く、同じフラットに住む男性がたまたま通りかかり運んでくれた。マカロニと多くの野菜の夕食。陶芸の仕事で浜田庄司のことを言われたが、知識がなく申し訳なかった。日本は陶磁器がよく理解されて陶芸家が生活しやすくうらやましいとも言われた。また阿部公房の「砂の女」の話題が出た。ご主人は仕事でウクライナへ三週間毎に行き、一週間在宅するというので、私たちは会えなかった。サッシャと言う息子さんは人工透析の医療機関に勤めていて、勤務が不規則で、ソニアも夜 10 時頃帰宅の日もあった。お米が残っていたのに帰宅途中で雨が降り、料理を作る機会を逃してしまい、申し訳なかった。お米を食べると言う事なので置き土産にする。1 日はドレスデン中央駅までソニアは送ってくれ、フルダ行きの列車に乗る。その後私たちは空白の 1 日を過ごす。

10/2~3 フルダには 6 時 45 分に着き、ウォルターとアナが駅に迎えてくれた。今まではどの家も築 120 年位の家だったが、彼らの家は 23 歳の女性が建てたのを借りていることで近代的な造りで、広い地下室も見せていただいた。マカロニと野菜のお料理。「なぜ 2 週間しか旅行しないのか、短すぎる、ドイツでは 6 週間バカンスするよ」などの話題。3 日の朝食後、散歩に行き、馬や牛そしてニワトリと田園風景を見て歩く。りんごの木にたわわに実ったりんごをウォルターがもぎ取ってくれ、土産にバナナも入れてくださった。古い教会にも連れて行ってきて、教会を中心に発展してきたということが良くわかる。

10/3~4 フランスはストラスブール 本来なら 2 日~4 日の予定がずれた為、空白の地から 2 日に行かれないと電話する前に私達を迎えにストラスブール駅まで迎えてくれたとのことで、申し訳なく思う。最初の電話で駅からバスに乗りややこしい道順を教えられたので、最初からタクシーで行くつもりだった。ウシは迎えに来ることを言わなかった。3 日に駅からすぐにタクシーに乗りウシの家に着いたのに留守なので途方にくれる。6 時まで待ち、来なかったら方法を考えようといっていたら、帰ってみえ、私達を迎えに言っていたといわれ、本当に心優しい人達だと感謝の念を抱く。同じ時間に 2 本の列車が到着したので、私達を見つけられなかったといわれた。着くとすぐアペリティフを出してくださり、夕食は美味しかった。レタスのサラダを出されたので、私は朝サラダを食べると、「朝は甘いものを食べるもの」とあきれたように言われた。短い滞在だったが、朝にはストラスブールの教会とライン川の辺りを散策に連れて行ってきて、昨夜予

約した TGV の切符を器械で発行しようとするもできず、カウンターに並びケステンスが買うのを助けてくれ、ホームまで見送ってくれた。

10/4~6 ムラン TGV 車中でお昼になったので、フルダのりんごを鞆から出して食べ始めると周りの人も食事を始めた。焼き海苔が鞆に入っていたので、周りの人にも食べてくださいと差し出し、海草の一種と説明したがほんの一口食べただけで、どこから来たのかと聞かれた。パリエスト駅は苦勞の連続だった。切符売りの人でさえ、間違っただけを教えてくれる。25 分でムランに着くはずが 50 分も掛かってしまった。まして、ムランは携帯が圏外と表示され使えず、テレカも売っていない。とうもろこしを駅前で売っていた男性にテレカを売っている場所を知らないかと聞くと私がアジア人かと聞き、親切にもテレカを渡してくれた。それでシルビエヌが迎えに来てくれた。バトランが仕事から帰る 7 時まで、彼女は英語があまり喋れないので、フランス語の筆談で彼女の学校のことを話した。スクールカウンセラーの仕事をしてみえる。彼女は石田衣良の本を読んでいた。5 日は日曜日でフォンテンブローの城の入場料は無料で沢山の見物客がいた。お昼になり近くのピザレストランで済ませ、そのあと蚤の市が一年に一回開かれていて、見物する。子どもたちも絵本やおもちゃなどを売っていた。夕飯はクレープを焼き、ご近所のカップルも加わり日本人が働きすぎなこと、休暇が少ないことなど質問攻めに合う。6 日のアンジェまでの列車と 8 日のドゴール空港までの予約もパソコンでバトランがしてくれた。6 日の午前中はシルビエヌがウイコンテ城に私達を連れて行ってゆくり見学する。帰るとバトランが昼食の準備万端整えて待っていてくれ美味しくいただく。バトランもモンパルナスからレンヌへ仕事で出掛けるのでアンジェ行きの列車の中まで見送ってくれた。今回は器械で切符が買えた。

10/6~8 アンジェに 6 時 30 分に到着した。ジョン・マルクと 2005 年に我が家に来てくれた懐かしいフランソワーズが出迎えてくれジョン・マルクの家へ。アンジェでとれた葡萄で出来た甘く美味しいワインを頂いてマリーの帰りを待つ。マリーが帰宅し、鮭とたらめの初めての魚料理だった。スペイン語教師を退職したばかりでドイツなどに行きたいから今英語を習っている、と言っていた。7 日はアンジェの教会、城壁など歩いての見学に付き添ってくれた。お昼はフランソワーズの学校に行き彼女と 2005 年に一緒に我が家に来てくれたジョエルとレストランへ行った。午後はジョエルの車でメーヌ川やブドウ畑など雨の中のドライブとなった。夕方にはフランソワーズの家で彼女の手料理を頂いた。本当に彼女が作ったのと思うほど美味しかった。これが標準的な料理よと言っていたが、ここでも日本人は政治の話をする傾向があるのではないかとジョエルが言い出した。それは本当だと思う、でもそれより日常の話のほうが話が弾む、というようなことでお茶を濁した。フランスに行くとみんな本当にいろいろと喋りあうから絶対に不断から意見を持っていないといけなあと私は強く思う。フランソワーズの家の中は古い家を改装して歴史を感じるものできれいだった。フランソワーズがギターを弾き、ジョエルと美しいハーモニーで 2・3 曲歌ってくれ、私には歌詞カードも用意してくれていた。夜 9 時ごろマリーの家までフランソワーズが送ってくれた。8 日はいよいよ帰る日で早く目が覚めた。ジョン・マルクとはあまり喋れなかったが素敵な人だった。お土産にアンジェのワインを頂いてスーツケースに入れたら、蝶番がこわれまたまたハプニング。ガムテープで応急措置をする。マリーはこれをカメラに収めた。

すべての家で、言葉には言い表せないほど良くして頂いた。最初はまとめて書こうと試みたが、一軒ごとに情景がいくつも浮かび細かく書くとまだまだ報告書があまりに長くなってしまふことを恐れる。フルダとストラスブールでは一泊それ以外は二泊し、短い滞在でも、知り合えてよかったと思える人ばかりであった。堀内和子 10 月 25 日記す

2) 松岡 利子報告

11月3日~5日 (Winterthur) Mr. Sandro Clarer 宅

始めにサーバリストから St. Gallen に住んでいると思ってメールを出したら、私の持っているリストは古いもので、現在は引っ越して Winterthur にすんでいると。しかしスイスは小さい国だから St. Gallen と Winterthur はそんなに離れていない。だから良かったら是非来てくださいと、丁寧な返事が来ました。それでお世話になることにしました。

地図を頼りにやっと探し当てて 4 時半過ぎに到着したらまだ仕事から帰ってきていませんでした。30 分ほど家の前で待っていたらご主人が帰ってきました。30 代の若いカップルのお住まいで、ご主人はコンピューターの奥さんは病院関係の仕事をしていました。ご主人は若い時に世界旅行を経験し、いろいろな人に巡り会って楽しかったとっていました。その時にサーバスのことを知り帰国してから早速会員になったと言うことです。

チューリッヒ地方の典型的な料理、ローシュティーとゲシュニツェルを作ってくれました。翌日はそのお返しに私達が料理をしました。現地のスーパーで材料を揃えたため充分ではなくお米もいまいちでしたが、何とかちらし寿司らしきものを作って一緒に食べました。世界旅行をした時の話がいろいろ聞けて楽しかったです。

11月5日~7日 (Vaduz) Mr. Kurt Buchel 宅

Vaduz は Liechtenstein にありますが、小さい国なので国の中に電車が通っていません。スイス側の Sargans 駅から電話をして迎えに来てもらいました。駅からはライン川を渡って 15 分ぐらいでした。山の中腹にある大きい家は Vaduz からよく見える絶景に位置していました。ご主人は会社を営んでいましたが、今

は引退して悠々自適の生活をしています。有名俳優が建てた家を買ったそうで室内プールまである豪邸でした。バルコニーからは小さいファドーツの町や向かいの雪をかぶった山が一望できました。日本へも仕事の関係で何回も来たことがあり、チーズフォンデュを食べながら日本の話もたくさんしました。

こんなに小さい国なのに電子機器の技術は世界最高で、CDを製作する機械はこの国が特許を持っていて世界中に輸出されているそうです。翌日は今もプリンスが住んでいるお城や切手美術館などを見ながら、小さい町を歩き回りました。

11月8日～10日 (Locarno) Mrs. Ormella Lob宅

ここはイタリア語圏になります。家族は4人でしたが、丁度ご主人は出張中、長男は旅行中で次男と奥さんが迎えてくれました。晩ご飯は北イタリアの有名なパスタを作ってくれました。じゃがいもやほうれん草の入ったパスタで初めて食べました。次男のGuidoも英語が話せるので、学校のことをいろいろ聞いたら日本語も習っているとのこと、ノートやテキストも見せてくれました。2日目には長男のDarioも帰宅し夕食を食べながらいろいろ日本について質問されました。若い世代にとって日本はアニメや漫画などであこがれの場所のようで、チャンスがあったら行ってみたいと言っていました。Darioは18歳で高校を卒業して大学に入る前に18月の兵役に就くとのことでした。スイスでは兵役は義務なので大変ですね。

11月11日～13日 (Lausanne) Ms. Birgit Schuback宅

BirgitさんとはLausanneの駅で待ち合わせをしました。実はこの方とは偶然なことに我々が日本を出発する2日前にトラベラーとして我が家にお泊まりいただいたので、再会と言うことになります。たまたま私がサーバステイのお願いメールを出したら丁度彼女も10月に日本へ来るとのことが分かり、良かったら金沢まで来ませんかとお誘いしたら喜んで伺うということになり実現しました。金沢では高山に行きたいという彼女と電車の時間を調べたり、私たちの出発の準備を手伝ってもらったりしました。そして同じ日に彼女は高山経由で名古屋へ、私たちはスイスへと旅だったのです。

Lausanneでは、半日私たちを案内してくださいました。朝市が立つダウンタウンを歩いたり、障害者の作品を展示している美術館を見たりしました。そして翌日は、チューリッヒに仕事で行く彼女に合わせて5時起きし6時過ぎの電車で彼女はチューリッヒに私達はジュネーブへと出発しました。

11月15日～17日 (Bern) Msr. Bettina Kambach宅

このご家族も4人で、15歳の息子さんと13歳の娘さんがいました。丁度家を改築中でごちゃごちゃしているけど是非来てくださいとのメールだったのでお伺いしました。Bernの中央駅からSバーンで15分くらいの所でしたが、たった15分中央駅から離れただけでとても自然美に溢れたところでした。

家の中は足の踏み場もないほどでしたが、何とかリビングの隅に私達のベッドを作ってくれました。ご主人は音楽が好きでいろいろな楽器を持っていました。特にアイリッシュ音楽が得意で、名前はわすれましたがタンゴのバンドネオンに似た楽器で、演奏してくれました。15歳の息子さんは来年からNZに留学するとかで、張り切っていました。翌日昼間は自分たちで近くを見て歩きましたが、インターネットで行きたい場所の情報や電車の時間まで調べてくれて、とても役に立ちました。夜は最近バカンスでモロッコに行った時のことで、話が弾みました。

11月18日～20日 (Luzern) Ms. Verena Schwalder宅

今年の4月に仕事を引退して今は一人暮らしの女性でした。彼女は何年か前にはスイスサーバスのセクレタリーの仕事をしておりサーバスの活動にはとても詳しくて、情熱も持っていました。家への道順はメールで知らせてくれていたので、指示通りにバスに乗り言われたところでバスを降りてうろうろしていましたら、向こうのアパートの窓から誰かが手を振っているのが見えました。もうそろそろ来る頃だとバス停の方を見ていたとのこと。無事アパートに着いてほっとしました。

彼女には日本のサーバス活動についていろいろ聞かれましたが、どこもだいたい同じ様だと言うことが分かりました。ただスイスでは1年に1回隣国つまりスイス・イタリア・フランスのサーバスが一堂に集まって3～4日のキャンプをするそうです。参加者は毎年違いますが常時30人ぐらいが集まって、ユースホステルに泊まってキャンプをしたり、ピクニックをしたりして交流を深めていると言うことです。島国である日本では考えられないことだと思いました。

以上6軒のホストにお世話になりましたが、どなたも親切でとてもよくしてもらいました。感謝しています。特に地域の情報は日本からではなかなか集めることが難しいものもありましたが、ホストのお陰でいろいろ詳しい情報が得られました。

本当にいい経験をさせていただいて有り難う御座いました。

3) 川村宏之・脩子様報告

スイス旅行14日間 (はじめてのサーバス旅行)

8月17日から8月30日までスイスを夫と二人で旅してきました。

チューリッヒ、バーゼル、ビール、トゥーン、ブリエンツ、チューリッヒと回りました。全て2泊3日で6軒のサーバスのお宅にお世話になりました。

1ヶ月前前にメールかお手紙で滞在の依頼をしました。ほとんどの方からOKのお返事をいただきましたが、中には“台所改築中なので日程を変更して〇〇日以降に来られないか？”などと仰言って下さる方もありました。依頼の際には最近の家族レター兼旅行記を送りました。一週間前には、“予定どおり伺う”と連絡しました。“待っている”と皆さんお返事下さいました。写真を添付して下さったり、また旅行に関して良い

示唆を送ってくださる方もあり、有難かったです。 6軒のお宅で“日本料理召し上がってみますか？”と伺ったところ、全家庭で 希望され、6回夕食を作りました。特に男性は何回もお代わりして下さい、嬉しかったです。素敵な台所が多く、羨ましかったです。

旅行好きで、ご自分もよく旅行する方もあり、また旅行に出ることは全く考えていないで、ただ来訪を楽しみ、交流を喜ぶという方もあり、感動しました。

“もっと泊まっていきなさい。どうしてこんなに早く帰ってしまうのか？”と本気で引き止めてくださる方も多く、感謝あるのみでした。受け入れる立場のあり方を学ぶ良い機会でもありました。受け入れが楽しみになりました。各地をゆっくり回ったので、天気を選びながら登山にするか、市内観光にするかを決めて行動できました。夫は仕事で何度かスイスへ行ったことがあります。私にとっては初めてのスイスでした。スイスパスは全ての鉄道や美術館に通用し、とても便利で安価でした。駅のインフォメーションの完備も個人旅行者にとっては、実に有難かったです。

初めてのサーバス旅行は心温かい方々に囲まれた、言葉に尽くせない感動的なものでした。

感謝しつつ 川村宏之、脩子